

コロナで受診控え影響か

がん診断6万人減

20年

主ながんの診断数		
2019年 ■■■■■ 減少割合		
胃	5万3238人	4万7220人 11.3%
男 大腸	6万4569	6万0188 6.8
性 肝	1万7386	1万6826 3.2
肺	6万1272	5万9239 3.3
前立腺	6万3846	5万9938 6.1
胃	2万3237	2万0337 12.5
女 大腸	4万4229	4万1786 5.5
性 肝	6779	6437 5.0
肺	3万0571	2万8994 5.2
乳 房	8万2445	7万8954 4.2

*国立がん研究センターによる

国立がん研究センターは二十五日、全国のがん診療連携拠点病院などで二〇二〇年に新たにがんと診断された人は、一九年と比べて六万人減ったと発表した。施設当たりの減少割合は4・6%だった。高齢化に伴い増加傾向にあるがん患者数が実際に減ったとは考えにくく、新型コロナウィルス流行の影響で、検診や

受診を控える人が増えた影響とみられる。今後、がんの発見が遅れ、進行した状態で見つかる人が増えると懸念される。

がんの診断数が減ったのは〇七年の集計開始以来初回とみられる。今後、がんの発見が遅れ、進行した状態で見つかる人が増えると懸念される。

として、受診を勧奨した。
全国八百六十三病院で診断された百四万人の院内が

人減り、減少割合は10%を超えた。このほか男性では大腸がんの診断数が6・8合わせて前年より八千九百人減り、減少割合は10%を超えた。このほか男性では大腸がんの診断数が6・8

人の多い初期がんの減少が目立った。胃がんの場合、二〇年にがん検診で見つかった人は一万四千人で過去

四年の平均と比較して24・3%減少した。

登録のデータを分析した。全体のがん患者数の72・5%をカバーしている。

このうち、がん診療連携拠点病院の部位別では胃がんの減少幅が大きく、男女

登録のデータを分析した。全体のがん患者数の72・2%減だった。症状が出にくく、進行してから見つかることの多い肝臓がんは比較的減少幅が小さかった。

具体的に検診で見つかるがんの多い初期がんの減少が目立った。胃がんの場合、二〇年にがん検診で見つかった人は一万四千人で過去

四年の平均と比較して24・3%減少した。